

令和5年度 市政懇談会各地区質疑応答一覧

担当課としての取組レベル
A 提言等の趣旨に沿って措置したもの
B 実現に努力しているもの
C 当面は実現できないもの
D 実現が極めて困難なもの
E 質問等に対する回答

No.	地区	提言等	取組状況	部	課	提言区分	取組レベル
1	小久慈	小久慈にも自主防災などがあるが、津波避難関係について不安に思っていることがある。小久慈には大きな会社があり、従業員も多く勤めているが、市は企業と地震対策など協議をしたことはあるのか。	現時点においては、市内企業と地震対策などを協議を行ったことはございませんが、企業が避難計画を作っているところもあることから、相談等があった場合には丁寧に対応してまいります。	総務部	防災危機管理課	質問	A
2	小久慈	市で、川崎町の警察跡地を活用するなどの案はあるのか。	現在、市が土地を取得して何かに活用するという計画はなく、購入の計画は持ち合わせおりません。	総務部	財政課	質問	C
3	小久慈	小久慈の県道を走ると、農地の遊休地や耕作放棄地が多く感じられる。前年に耕作をしても、翌年に手を入れなければたくさん草が生える。難しい問題だと思うが、市で考えていることがあれば教えてほしい	遊休農地・耕作放棄地については、毎年度、土地所有者に対し「利用意向調査」を行い、農地集積・集約を目的とした農地中間管理機構へのあっせん等の対策を行ってきましたが、農地の引き受け手は極めて少なく、見通しは厳しい状況にあります。こうした中、令和5年度～6年度において、地域ごとに農業振興やまちづくりについて話し合い「地域計画」を策定することとされており、この課題についても、同計画作成業務の一環として、地域住民や関係者・団体からのご意見・ご提言を取り入れながら取り組んでまいります。	農業委員会	農業委員会	質問	C
4	小久慈	平成28年に市の指導で未来づくり事業が始まり、町内会の5カ所で町内をまとめワークショップを実施。翌年には市に未来づくりを指導された部分によって、市民が住みやすい地域にするにはどうしたら良いかなど話し合いながら進めてきた。そういう意味では、私たちの活動をつくってくれたのは皆さんであるが、最近その時点よりちょっと姿が見えないので、悲しい思いがある。もう少し地域に来ていただければいいなと思っている。みなさんには感謝しているので、また指導に来てほしい。	未来づくり事業は、平成27年から大川目・山根・山形地区、平成28年度が小久慈地区・夏井地区、平成30年度から宇部地区、令和4年が侍浜地区内と、7地区で実施しております。小久慈地区の皆さんは、一定の活動ができているという部分もあり、今進めている地区やこれから活動を始めていく地区にシフトしていた部分はあったと感じております。今後は皆さんからの意見を参考にしながら進めて参りたいと考えております。	総合政策部	地域づくり振興課	要望	B

No.	地区	提言等	取組状況	部	課	提言区分	取組レベル
5	小久慈	小久慈市民センターから200メートルぐらい先にあるアルココムカイ付近の用水路だが、舗装して高くなり80センチから1メートル程になった。水路が斜めになり、落ちやすい状況になっていると感じる。できればそこに安全策として、一番は蓋がいいが、コーンとロープなど安全策をお願いしたい。	県道久慈岩泉線の歩道に近接している水路に対する安全対策につきましては、水路管理者である久慈市土地改良区や県道管理者の岩手県と協議し、対応を検討してまいります。	建設部	道路河川維持課	要望	C
6	小久慈	通称、キドウと言っているが、岩瀬張につきあたっている。ここからどこに行けばいいのかとよく言われる。県道に出るにも、ぐるっとまわることになる。前は、岩泉方面の案内板があったと思うが、今は見えない。以前は何回もそこに車がぶつかっていた。最近はないようだが、光る警告灯などもついていた。事故もないようなので今は良いが、何とか改良してほしい。	市内には道路改良の要望が多くあることから、財政状況や緊急性、必要性など勘案しながら検討をしてまいります。	建設部	道路河川維持課	要望	C
7	小久慈	キドウについて、側溝や堰を工事していただいている。継続事業で3年目。ここは、子どもたちが通るところでもあるが、少し大きな雨が降れば道路を流れる状態である。できるだけ早く完成できるように手を打っていただきたい。また、キドウから県道に抜ける道路をもう少し、いい道路がほしい。堀から抜けることはできるが狭くなっており、プロイラーやダンプなどの大きい車はなかなか大変である。キドウから県道に抜けて、山根方面に曲がるときも曲がりづらい。街道をやってもらい少しは良くなったが、岩瀬張寄りでもどこでも良いが、わかりやすい道路が欲しい。	普通河川白山川につきましては、全体計画延長460mのうち、令和5年度末までに200mの整備が完了する見込みであり、残る区間につきましても整備に努めてまいります。市道小久慈線(通称軌道)につきましては、沿線に家屋が立ち並び拡幅等の整備は困難であります。市道小久慈線と主要地方道久慈岩泉線を結ぶ路線として、旧川敷を活用した道路整備を検討しているところであり、利便性の向上や交通危険箇所の解消に努めてまいります。	建設部	建設整備課	要望	A
8	小久慈	地権者の都合か市の予算の都合なのかわからないが、歩道が途中で切れている区間がある。自転車を通る道でもあるので、できれば歩道を繋げて通れるようにしてほしい。また、大型ダンプの運転手から、クルミの木の枝が邪魔でダンプにぶつかりそうであると話がきている。堀から岩瀬張に向う左側だが、歩行者や自転車がいたら寄られない。枝を伐ればいい話だと思うが、考えていただきたい	歩道が切れている区間について、暫定的な安全対策として路面表示やラバーポールによる歩行空間の整備を実施しました。歩道整備につきましては、土地調査など整備の可能性について検討を進めてまいります。また、クルミの枝の剪定につきましては、所有者へ要請してまいります。	建設部	道路河川維持課	要望	B

No.	地区	提言等	取組状況	部	課	提言区分	取組レベル
9	小久慈	少子化で、学校の生徒数が少なくなっているようである。ちょっと離れた地域では生徒数がかなり少なくなっていると聞いた。今後、学校の対策は考えているのか。	児童生徒数の減少の進行などに鑑み、平成30年3月に令和9年度までの10年間を計画年度とする「小中学校の適正配置に関する基本方針」を策定いたしました。学校の適正規模の維持のため、小学校1校、中学校5校を統合対象校とし、令和8年4月の統合を目標とし、現在、保護者や地域との合意に向けた話し合いを重ねており、次代を担う子どもたちの良好な教育環境の維持のため丁寧に事務を進めてまいりたいと考えております。	教育委員会	教育総務課	質問	E
10	小久慈	敬老会の名簿だが、来年はどのように考えているのか。敬老会に特化した名簿なので、何とかして欲しい。本人の意思で参加しないのは仕方がないが、案内もできないので非常に悔しい思いしている。是非とも案内だけはみんなにしたいと考えているので、何とかしていただきたい。	昨年4月、個人情報保護に関する法律が改正されたことに伴い、市では75歳以上の敬老会対象者に対して、敬老会の名簿提供に対する本人同意を求め、同意を得られた対象者の名簿を各地区の敬老会主催団体に提供したところであります。今後も多くの敬老会対象者にご案内できるよう、敬老会主催団体と協力・連携した新たな方策を検討してまいります。	総務部・生活福祉部	総務課・社会福祉課	要望	B
11	大川目	大川目の人口推計について、詳細が出ていないということだが、大川目が現段階でどのような要因で減少しているのか、また減少していくのか予測はしているのか、教えてほしい	令和5年12月発表の「日本の将来推計人口」によりますと、2050年の久慈市の人口は17,896人にまで減少すると見込まれています。人口減少と少子化は当市の最重要課題と考えており、現在も産業の創出や子育て環境の整備など、各種施策に取り組んでいるところです。令和6年度には「久慈市人口ビジョン」の改訂、「第3期久慈市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定を予定しており、その作業において、地区ごとの人口動態や地域特性の分析、人口減少対策事業の検討などを行う予定としています。	総合政策部	政策推進課	質問	B
12	大川目	野田村は、全村民インフルエンザなどの予防接種などが無料だと聞く。	インフルエンザ予防接種の予防接種法における位置づけは、65歳以上の方は定期接種、他の年齢については、任意接種の取り扱いとなっておりますが、当市においては、独自に助成対象拡充のうえ対応しており、県内他市との比較では、手厚い助成内容となっております。さらなる助成の拡充につきましては、他市等の状況や財政状況を勘案しながら慎重に検討してまいります。	生活福祉部	保健推進課	意見	C
13	大川目	久慈中学校はあのままで統合か。	大川目中学校、夏井中学校、侍浜中学校の3校を久慈中学校と統合する提案をしており、久慈中学校の空き教室等を含めた学校の施設規模で受入対応ができると考えております。	教育委員会	教育総務課	質問	E

No.	地区	提言等	取組状況	部	課	提言区分	取組レベル
14	大川目	久慈中学校は、5メートル以上の浸水区域であり防災面に不安がある。	「久慈市津波避難計画」の策定を受け、学校の「避難確保計画」の更新を進めております。防災教育、避難訓練を徹底し、生徒の安全を確保してまいります。	教育委員会	教育総務課	要望	B
15	大川目	学校は、建て替えをし整えてから、統合という形ではないのか。	市内の学校は全体的に老朽化が進み、耐用年数を迎える学校があるほか、津波浸水区域内に位置する学校があります。現在、令和8年4月開校を目標に久慈湊小学校の建設を進めており、その後は、山形小学校を改築する予定としております。学校施設の整備については、市内全ての学校の老朽化等の状況から優先順位をつけて進めていることから、ご理解をお願いいたします。	教育委員会	教育総務課	質問	E
16	大川目	防災の面で久慈中学校への統合に反対している。いつ来るかわからない津波に関して、子どもたちを守れない。それならば、大川目や夏井とか侍浜に散らせばよい。	津波等への防災対策として、学校における「避難確保計画」の更新とあわせ、防災教育、避難訓練を徹底し、生徒の安全を確保してまいります。一定規模の集団で学ぶことができる学校規模の確保が必要であることや、近い将来再統合としないよう「小中学校の適正配置に関する基本方針」に基づき、取り組みを進めておりますので、ご理解をお願いいたします。	教育委員会	教育総務課	質問	E
17	大川目	久慈中学校は、津波避難区域になるので危険ではないか。	「久慈市津波避難計画」の策定を受け、学校の「避難確保計画」の更新を進めております。防災教育、避難訓練を徹底し、生徒の安全を確保してまいりますのでご理解をお願いいたします。	教育委員会	教育総務課	質問	E
18	大川目	消防団員が減り、消防団の幹部会の中で定員の見直しの話が出ていた。若い人たちは消防団に対しての興味がなく、なかなか入団に至らないし、人口も減少している。山根も大分人口が減ってきている。消防団員としては人数がいるが、全員出るわけではなく車の管理も大変であり、減らしてほしいという話もある。	市では、消防団員の処遇改善を始め、広報活動等にも積極的に取り組み、消防団員の確保に努めてまいりました。しかしながら、人口減少等の影響により、団員数が減少していることから、屯所の統合など現状に合わせた消防団のあり方について検討し、今後とも消防力を維持しながら、団員の負担を軽減を進めてまいります。	総務部	防災危機管理課	要望	B

No.	地区	提言等	取組状況	部	課	提言区分	取組レベル
19	大川目	現在、出生率も低いようであるが、出会いの場づくりをやったことはあるのか。	令和元年度までは縁結び支援員による結婚希望者の支援を行っていましたが、支援希望者の申込みがなくなったことから縁結び支援員による活動は中止されています。また、結婚支援イベントを実施する民間団体等に対しての補助金制度もありましたが、コロナ禍により活動する団体もなくなってきたところであります。 現在は、会員登録制により1対1の出会いの機会を提供している「いきいき岩手結婚サポートセンター」(i-サポ)への入会登録料を全額補助しており、入会者数は微増している状況です。	生活福祉部	子育て世代包括支援センター	質問	B
20	大川目	まちづくり協議会で、新しい事業への取り組みや継続したい事業などを話し合っている。新しい事業をやりたいというものの中に、大川目の生物図鑑をつくってもらいたい。久慈城の整備や久慈城の漫画を発行してはどうか、などある。例えば、久慈城の漫画をつくるろう、と本格的になった場合だが、漫画を描く人はいるので単行本にするのに、お金の面で久慈市から支援はあるのか。	コミュニティ事業が該当するのではないかと思います。が、内容等含め事前に相談に来ていただければと思います。	総合政策部	地域づくり振興課	質問	B
21	大川目	指定管理の話だが、地域づくり交付金は、自由に使っていいよといった感じであったが、ここ2年は、申請すると「これは該当にならない。ダメだ」などと言われる。こちらはやりたい事業があるが、断れることに私は憤慨している。もっと自由にならないものか。	地域づくり交付金は、地域の創意工夫によって主体的に地域課題の解決を図り、並びに自治意識及び地域の一体感を醸成する地域づくり活動に要する経費に対して交付し、住民主体の地域づくり活動を推進することを目的とするものであります。このことから、実施する事業が、目的に沿っているか、地域の総意によるものかについて確認をしております。	総合政策部	地域づくり振興課	要望	B
22	大川目	久慈川左岸の河川敷に木が大分生えており、伐採したいという話になった。ボランティアを募ってと思ったところ、河川敷の土地に所有者からハンコをもらえないと出来ないと話をした人がいた。我々で調べてその所有者を調べるのも大変である。また、この辺りの人であれば、我々が行って交渉もできるが、遠方だと厳しい。久慈市から手助けしてもらうことはできないか。	河川管理者である県北広域振興局土木部に地元の協力姿勢について情報を伝えました。伐採する箇所について確認しながら作業を進める必要があることから、県と情報を共有しながら取組みが進むよう市としても協力してまいります。	建設部	道路河川維持課	要望	B

No.	地区	提言等	取組状況	部	課	提言区分	取組レベル
23	大川目	大川目中学校が統合し、廃校となった後の校舎の活用について、話し合った。建物の有効利用として、例えば、企業対象とした貸事務所。産直施設を設ける、学校の駅などといったネーミング、校庭の農業利用、公共施設の集約ということで養寿荘や保育園、市民センターなどに使用しよう。また、博物館、美術館、久慈城関連の専門資料展示場、民間で使うカフェ、食堂、漬物工場、産直施設、音楽スタジオ、映画館、コンビニなどである。	設備投資や誰が運営や設備投資を行うのかも大きくかわってくると思われます。現在、施設は国の基準があることや使用用途が学校であることから、確認しながら進めていく必要があります。	教育委員会	地域づくり振興課	意見	C
24	宇部	奉仕活動について、ほぼ75歳過ぎの方々に活動してもらっているが困難を極めている。朝1時間の草刈りやごみ拾いなどの範囲が、だんだんできなくなっているのが久慈市にお願いしたい。要望で出したが、なかなかいい返事が来ない。	市内の他地域でも同様の事案があることは認識しておりますが、市としては、自分たちの地域を自分たちできれいにしてほしいという意識醸成を主な目的として、市内全域の早朝1時間清掃を呼びかけております。活動時に発見された不法投棄や大型の廃棄物などについては、庁内担当課や関係機関と連携し、これまでも対応していることから、今後でもできる範囲内で地域住民の皆さんには、早朝1時間清掃へご協力いただきたいと考えております。	生活福祉部	生活環境課	要望	B
25	宇部	個人情報厳しくなっているようである。1年ほど前から、町内に転入した方や転出した方など、私たちに一切教えてもらえなくなった。名前などそういったものがないので、転入された方をわからない部分がある。町内会に入ってもらおうと思っても、なかなか名前を聞けない。	これまで区長配布業務について、当該配布業務に活用いただく目的で、行政連絡区長に対し、転出入者の情報を提供してきたところでありますが、昨年4月、個人情報の保護に関する法律が改正されたことに伴い、住民情報を提供出来なくなったため、現在は、転出入のあった世帯数のみをお知らせしているところであります。配布業務が円滑に行われるよう、今後とも区長に対する情報提供のあり方について、他市の事例等を参考にしながら研究してまいります。	総務部・生活福祉部	総務課・生活環境課	要望	B
26	宇部	2年に1回、市役所から行政区の名簿を出してくれと言われる。去年までは電話番号までも書けたが、今年は書けない。大きな地震があったときに、行政からここに何人いましたかと聞かれると思うが、答えられない。このままで大丈夫か。	名簿については、2年毎に行う区長の委嘱替えにあわせ、配布先の確認や謝礼金算定のため提出していただいているものであり、今後ともご協力いただきますようお願いいたします。昨年4月、個人情報の保護に関する法律が改正されたことに伴い、個人情報の提供等については取扱いが厳格化されたところです。なお、市においては災害時要支援者名簿を作成しており、消防団や市と協定を締結している町内会・自主防災組織等と要支援者情報の共有を図っているところです。	総務部・生活福祉部	総務課・生活環境課	質問	B

No.	地区	提言等	取組状況	部	課	提言区分	取組レベル
27	宇部	私の部落は田子沢地京沢線という市道が通っているが、道路沿いに空き家がある。木が道路端にあり成長し、葉が落ちる、枝が折れるなど、すごく市道に支障をきたしている。部落ではどうにもできないが、野田村に住む空き家を管理をしている人が2日程前に来て、市に相談してみてもと言われた。木は何本でも伐っていいので、伐採を市でやってもらえないか、とうことである	森林環境譲与税を活用した市道沿いの支障木の伐採についてですが、林業振興に資するものではないため、譲与税の活用は困難であります。	産業経済部	林業水産課	要望	D
28	宇部	河川に木が倒れていて見てもらえたか。大雨が降ると危ないをお願いをした。話がなかったがどのようになっているのか。	河川内の倒木につきましては、令和6年3月に除去したところです。	建設部	道路河川維持課	要望	A
29	宇部	平沢に上がっていく道路だが、冬になると滑りやすいので、滑り止めを撒いていただければありがたい。	路面凍結の恐れがあるときには、凍結抑制剤の散布を行っているところです。また、令和5年度に砂缶を増設しました。	建設部	道路河川維持課	要望	B
30	宇部	公民館付近のプールそばの用水路だが、かなり増水し車の落下や、最近落ちて亡くなった人がいると聞いた。大雨があれば増水して、一気に道路か川かわからなくなる。ガードレールなど対策はできないか。毎年増水すると冠水して見えなくなる。	水路への転落を軽減できるよう視線誘導標の設置などの検討してまいります。	建設部	道路河川維持課	要望	C
31	待浜	中学校統合だが、地域の皆さんとお話すると「仕方がないのかな」という意見と、「やっぱりなくなれば寂しい」という意見で、せめぎ合いの形だと思う。ただ、生徒がどう考えるかが一番重要だと思っている。自分の子どもだと考えるとやはりクラブなど、やりたい部活をやらせた方がよいのかとも思う。中学生ならある程度の競争のところに置かれないと、今後厳しいのかなと感じている。	部活動の選択肢が広がることや、一定の集団の中で、多様な考えに触れ、協力し合い、切磋琢磨することで、これからの進路先や社会に出た時に必要となる協調性や社会性、たくましさ等が育まれると考えおります。	教育委員会	教育総務課	意見	E

No.	地区	提言等	取組状況	部	課	提言区分	取組レベル
32	侍浜	学校統合だが、侍浜だと津波に安心であるが、久慈中学校だと津波がちょっと心配だという親の話を聞く。財政状況をいろいろわかっているつもりだが、できれば久慈中学校を統合するのに相応しい学校にしてほしい。かなり老朽化していると思う。	市内の学校は全体的に老朽化が進み、耐用年数を迎える学校があるほか、津波浸水区域内に位置する学校がり、学校施設の整備については、市内全ての学校の老朽化等の状況から優先順位をつけて進めており、ご理解をいただきたいと考えております。 学校における「避難確保計画」の更新とあわせ、防災教育、避難訓練を徹底し、生徒の安全を確保してまいります。	教育委員会	教育総務課	要望	B
33	侍浜	教育旅行であるが、侍浜地区は3,600人程度民泊を行ってきた。市長のご配慮でいろいろな事業を展開してきたということだが、今後の活動展開をさらにトップセールスで「心配のない久慈市にぜひおいでください」といったような営業活動をお願いしたい。	教育旅行や外国人受入のため、教育旅行誘致説明会（札幌・東京・大阪）に出席するほか、旅行代理店・学校等への営業活動を受入団体と行ってまいります。	産業経済部	商工観光課	要望	B
34	侍浜	防災公園整備の関係で発掘調査をしたとき、すばらしい平安時代の鏡が出てきたということで、マスコミに大きく報道された。みんなにわかってもらおうという意味で、解説版を掲げて欲しいと、市長にお手紙を差し上げたことがあった。貴重なこの文化財産を、ぜひ市民にお知らせをいただきたい。	線刻阿弥陀三尊鏡像のことだと思われませんが、平成30年3月に市の文化財指定をしております。非常に遅れてしまいましたが、令和5の予算の中で対応し、案内板の設置をいたします。	教育委員会	文化課	要望	A

No.	地区	提言等	取組状況	部	課	提言区分	取組レベル
35	長内	<p>久慈は自然界の産業に恵まれている場所であり、山にしても海にしても、或いはその農林にも、ある程度の面積がある。これらを復活させ、1次産業が安定させないと、長い継続的な生活安定の方向に行けないのではないかと私は思う。予算には限界があるわけだが、年度、年度単位で計画を進めていこうとしているものなのか。そのような取り組みを、考えていけるものなのか、お伺いしたい。</p>	<p>農業においては、定期的な就農相談会を開催しているほか、国の事業を利用し、経営が安定する一定期間について補助金を交付し、これからの農業の担い手の育成を行っております。また、国に対し再生産が可能となるよう、必要な関税措置の確保や国内農作物の将来にわたる持続的発展について、提言しているところであり、今後におきましても、地域農業の発展に努めてまいります。林業につきましては、原木しいたけ生産支援として、岩手県と協調して、新規参入者がいる生産組合を対象に「原木しいたけ新規参入支援事業費補助金」により、椎茸原木の確保に対して支援しているほか、市内の生産者で組織する「久慈市しいたけ生産推進協議会」に対して補助金を交付し、継続的に活動を支援しております。木炭についても、木炭の品質管理のため、デジタル温度計、精練計、炭切機などの付帯設備について補助を行っており、今後におきましても支援してまいります。また、乾椎茸・木炭等のブランド力の強化につきましては、岩手県や関係団体と連携して対応しているところであります。漁業については、水揚数量の減少対策として、つくり育てる漁業の取組を重視しております。支援策といたしましては、これまでに、ウニ・アワビ・ナマコの種苗放流、コンブ等の餌料生産、ウニ・アワビに対する給餌、ギンザケ等の魚類養殖事業における餌料購入及び施設リース料に対しまして補助しているほか、漁業者向けに「アワビ種苗放流勉強会」及び「ワカメ・コンブ養殖出前講座」などの講習会を開催するなど、多角的な支援に取り組んでまいりました。今後におきましても、持続的な漁業の実現に向け、水揚数量の確保及び拡大に向けて支援してまいります。また、ウニ・アワビ・ギンザケをはじめとした本市水産資源のブランド化及び周知につきましては、久慈市漁協や岩手県当の関係機関・団体と連携し、引き続き実施してまいります。</p>	産業経済部	農政課・林業水産課	意見	B

No.	地区	提言等	取組状況	部	課	提言区分	取組レベル
36	長内	進学や専門学校で若い人が転出する。地元の人材育成のような施設をつくらないのか。県内でも何か所かやっているようだが、地元に残って少し頑張るぞという、起爆剤になるようなものを考えられないものか、お伺いしたい。	大学・専門学校など高等教育機関が立地することは若者の市外流出を抑制するとともに、学生・教職員の移住による消費の拡大や地域の活性化、学校運営に係る地元雇用の創出、さらには建設工事による経済波及効果など、多くのメリットがあると捉えております。全国的な少子化の進行を背景に、各高等教育機関においては、学生の確保に危機感を持って取り組んでいる状況ではありますが、当市の持つ魅力や立地特性と親和性のある運営方針をもった教育機関の情報にアンテナを高くし、誘致に向けた取り組みを検討してまいります。	総合政策部	政策推進課	意見	C
37	長内	子どもができない、結婚したくないなどはしょうがないと思うが、結婚したい、結婚したが子どもができないなどといった場合、そこは手を打つべきだろうと思う。以前、待機児童で保育園に入れることができなかったお母さんの声が社会問題になった。時間はかかると思うが、先行投資的に環境を整え、赤ちゃんや幼児、就学前の子どもたちを安心して預けられるような施設を整備し、小さい子ども育てやすいよ、とママさん仲間で浸透するぐらいの、かなりの好条件を打ち出してはどうか。意識を持ち、あえてそこに投資し数年かけて啓蒙していく。そして、近郊の若いご夫婦を引っ張り込む対策がいいのではないかと考えている。人材の問題もあり、当分はお金を出す一方になると思うが、あえて数年かけて力を入れ、皆さんに浸透するまで頑張る。いろいろな面で、そのようなものがないのではないかとと思う。1次産業の話も出たが、それを言えば高齢者問題、介護も増えるわけである。もちろんそれも大事だと思うが、若いご夫婦が久慈だと子ども産み、育てやすい環境をつくり、久慈の特徴として売り出す。このような考え方はいかがなものかと思っている。	子育て世帯を呼び込むためには、子育て支援を手厚く実施する必要がある一方で、雇用や教育など複合的な施策を展開していく必要があるものと認識しております。限りある財源のなかで、選択と集中を図り各種施策を実施していく必要があるため、統計情報等の客観的なデータを活用し、効果的な子育て支援施策等の展開に努めてまいります。	生活福祉部	子育て世代包括支援センター	意見	B

No.	地区	提言等	取組状況	部	課	提言区分	取組レベル
38	長内	「子どもが安心して住める」そのような意味で保育園や子ども園、或いはそういったことに関係している部分についての効果の上がることを絞り、そこを進めてそこを売り物にする。この辺のところには「大体のところには負けない」ぐらいのものにフォーカスし、特徴のあるまちづくりのひとつとして進めるのは、いかがか。	効果的な子育て支援施策を見出し、重点的に実施していくことは非常に重要であると認識しております。統計情報等の客観的なデータを活用するとともに、他自治体の事例を研究し、効果的な施策の展開に努めてまいります。	生活福祉部	子育て世代包括支援センター	意見	B
39	長内	保育園などが、なくなりそうときだからこそピンチで、困る人がいるということである。例えば、赤ちゃん1人に対して、大人が2人関わるぐらいの、濃厚なサービスをする。そういった考え方の話である、もちろん限りがあると思うが、地区によって小さい子どもを通わせるのも、大変なことである。困難なところを、ちょっとした努力でできるならば、そこに現実的に手を加えるなどの方策がとれば良いのではないのでしょうか。それが、この久慈の特徴のひとつになるぐらいのものを、みんなで知恵を絞ったらどうかと思う。	現在及び今後、保育所等への通園が困難な地域においては、地域に応じた支援が必要になるものと捉えております。小規模保育の実施や、送迎支援など、地域と協議・協働し、その地域に適した魅力ある子育て支援サービスの実現に努めてまいります。	生活福祉部	子育て世代包括支援センター	意見	B
40	長内	子育てに関連して、久慈市の自然を豊かだと感じる反面、その郷土に対する誇りのところの度合いが低い、というようなアンケートを以前見たことがある。久慈市が、子育てに関わって、金銭的な補助以外で、とても魅力があり、そこに子育て人口が移住する。いずれ出て行くにしても、そのような移動があれば、久慈市に新しい風が入ってくるのではないかと感じる。何か特化した魅力があり、遠いところからでも、家族で移住してくれれば、それはとても良いことだと思う。	子育て世帯の当市への移住・定住促進のためには、金銭的な子育て支援のみではなく、雇用、教育、地域活動などの分野で、市の魅力を高めていくことが重要だと認識しております。市の魅力に関する新たな資源の発掘や情報発信、地域振興等に努め、市の魅力向上に努めてまいります。	生活福祉部	子育て世代包括支援センター	意見	B
41	長内	ぜひやっていただきたいと思ったのは、恐竜博物館である。久慈市の財産を形にできたら、もぐらんぴあと連動する、三船十段記念館と連動する、というような文化圏を形成でき、子どもたちもそこで学習できるのではないかと感じた。	博物館の建設は経済効果が高いと考えており、岩手県に対し建設を要望しております。また、久慈市には魅力的な既存の資源が多数ありますので、それらと恐竜化石を連動させた観光誘客や、久慈市特有の教育環境を築いていくよう努力してまいります。	総合政策部	政策推進課	意見	B

No.	地区	提言等	取組状況	部	課	提言区分	取組レベル
42	長内	40代ぐらいの方が国家資格を取れるような、例えば東高校の設備などを使い、聴講生が入るような制度、そのような支援の仕方っていうのがあったら良いと思っている。	現在、市民センターではカルチャー教室を行っておりますが、学び直しのもう少し上のレベルのお話だと思います。市民センターもさまざまな事業を行っております。家にこもりテレビを友とするのではなく、外に出て人と会い笑う。いかに元気でいるか。何かあったときには、お互いに助け合う。これがすごく大事なことだと思っております。	総合政策部	地域づくり振興課	意見	C
43	長内	久慈は、県内で津波浸水想定で災害犠牲者が1番多いと予想され、非常に安心できない地域になっている。マップが配布され、逃げればよいことはわかるが、それでいいものか。震災の状況を見ていると、1時避難から2次避難は特に高齢者にとって、不安材料になっている。2, 3日、耐えていれば全国から支援が来るだろうという話もあるが、その前に住民に少しでも不安解消できるような、現在完璧ではないけれども、こういう取り組みでやっているぞ、といったものが日常的に見られれば安心できる。	昨年全面的に見直しを行った「津波避難計画」において、指定緊急避難場所を目指すため、まずは浸水想定区域外へ最短で抜けてもらうための地点である「避難目標地点」を定めるところであります。避難目標地点を示す標識の設置事業を、今年度から着手しており、令和6年度の津波避難訓練前までに市内全箇所への設置を完了したいと考えております。また、今後、津波からの迅速な避難に必要な避難路や避難場所などの整備について検討を進めてまいります。	総務部	防災危機管理課	意見	B
44	長内	災害を起きた後、後追いするのではなく、少しでも何とか災害予防とか減災に繋がるような取り組みを市民にアピールしていただければ、非常にありがたいと思う。	耐震調査の補助金の活用のほか、家具のストッパーの設置を個人個人にお願いをしているところです。想定されている震度は、立ってられないほどの揺れであり、おさまってから避難となりますが、普段から非常用のリュックや冬は鍵がどこにあるのかなど、改めて確認をお願いいたします。避難道や避難所の整備はこれからとなりますので、個人や自主防災組織、隣近所で助けあい、いざというときに備えていただければと思います。首都直下型地震や南海トラフも確実に来ると言われております。ここだけが危ないではなく、活断層は全国に2千以上あると言われおります。知られていない活断層もたくさんあり、富士山の噴火の話や岩手山の噴火など、日本列島全体が何かの危険因子を持っていると言われておりますので、ご理解をお願いいたします。24時間これを心配しないといけないということではなく、起きたら高台に上がれば助かる。あとはみんなで片付けるということだと思っております。	総務部	防災危機管理課	意見	B
45	長内	湾口防波堤や岸壁。さらに近くの津波や擁壁など、これらが壊れなかった場合の侵害状況の公表データはあるのか。	岩手県より参考資料として、津波が防潮堤等の構造物を越流しても破堤しないと仮定した場合の浸水想定が公表されております。構造物が壊れなかった場合でも、以前まで想定されていた浸水域よりも広い範囲での想定となっております。	総務部	防災危機管理課	質問	A

No.	地区	提言等	取組状況	部	課	提言区分	取組レベル
46	長内	三陸鉄道の水路がある。その水路とトンネルだが、水が出たときに市が自動的にポンプアップしている。土木に行って相談したら、そのうちに行ってみると言われてから、11年が経つ。どうすればいいのか、どなたに話せばいいのかわからない。	水路の破損につきましては、早期の修繕に努めてまいります。	建設部	道路河川維持課	要望	C
47	長内	U字溝が割れ、水が畑に出る。流すのは三陸鉄道と久慈市だが、小屋畑川に流れ大変である。そういったところに、目を配っていただければ非常に助かる。	水路の破損につきましては、早期の修繕に努めてまいります。	建設部	道路河川維持課	要望	C
48	長内	トチヤマ床屋や八幡鉄工所など水の出る地域だが、川上の造成が進んでおり、今まで田だったところがほとんどなくなっている。大雨がそれほど降っていないが、今まで遊水地になっていたところは全部埋まってしまったので、もろに流れてくると思う。水が出る前に、排水路をどう考えればいいのか、一度検討していただきたいと思う。	田高ポンプ場のほか、田高から新築町公民館にかけて雨水排水路の建設を進めている。ポンプ場は令和6年3月完成、雨水排水路は令和7年頃完成を目指している。	上下水道部	上下水道整備課	要望	B
49	夏井川代	若い人との交流をしながら、よそ者も川代にも入ってもらいたい、と思っている。人口減少を見ているのではなく、みんなで行動を起こして、つなげていくような方策というものを考えていかなければならない。地域内の見守りと助け合いが、今よりもっと大切になるのではないかと感じている。できるだけ体制づくりをとりながら、振興会の活動ができればよいと思っているが、いいアイデアがあったらご助言をいただきたい。	地域おこし協力隊という制度がございます。市内11人が活動しており、山形町で短角牛の繁殖や山根町に20代の夫婦が農業を営むなど外から来た人にも活躍いただいております。もしこの地域に来たいという人がいたら地域の皆さんは応援をしていただきたいと思います。みんなで大事にしてみらうと3年だけでなくその先もここに残ってという可能性があります。地域おこし協力隊は農業だけではなく使えるので、さまざまな分野で考えていけたらと感じております。	総合政策部	地域づくり振興課	意見	B
50	夏井川代	18歳から結婚適齢期の人たちに、久慈市がどのようなあれば結婚をしたいと思ってくれるのか、アンケートなどの試みをしたことはあるか。それ位の年齢ならば、結婚というものをよく理解できていると思う。私たちの現実には資料で分かるが、少しでもよくするための意見がいろいろあると思う。	現在、人口減少対策として、地域ごとの課題を明確化するためのアンケートを実施しています。アンケートは広報くじで周知しているほか、子育て施設の利用者や高校生など幅広い年代の方々に協力をお願いしています。アンケート中には結婚に関する質問項目もあり、結婚に対する現状や各々の考えを確認できる内容となっています。今後は、このアンケート結果を分析し、より効果的な施策の検討・実施に繋げていきたいと考えています。	総合政策部	政策推進課	質問	A

No.	地区	提言等	取組状況	部	課	提言区分	取組レベル
51	夏井川代	<p>交流館や道路など、県の中山間事業が入り住めるが、大芦町内会は14世帯で1人住まいの家が大変多い。私が中学生のころは、2クラスで80名ぐらい夏井中学校に生徒がいた。その頃から比較しても、物も食べ物も豊富だが、子どもたちが全くいない。本当にどうにもならないが、ここの地区は年老いても、みんなで何かやろうとする力はある、参加していく地区なので、ますます大事にしなければだめだと思っている。この地区で市政懇談会を開催したわけを、今後の参考にしたいとので、お話しただければと思う。</p>	<p>この数年、新型コロナウイルス感染拡大により、市政懇談会を開催できずにおりましたが、昨年に5類に移行したため、住民の皆さんと市長がお話をする機会を作りたいと考えておりました。ただ以前のように大勢の市民の皆さんに参加いただくというところまで思い切つてできないところもあり、まず地域のまちづくり協議会があるところはまちづくり協議会の皆さんと、ないところは町内会長や区長たちと相談しながら、開催を検討していたところでございます。夏井地区についても、夏井地区全体でも考えていましたが、相談をさせていただく中で、川代地区は川代地区である程度皆さんが集まって、意見交換ができそうだというお話を聞いたので、川代地区1つの単位として今回開催したところございます。</p>	総合政策部	地域づくり振興課	意見	A
52	夏井川代	<p>人口の減少について説明を受け、山根町や山形町は大変だと感じた。それでも頑張りイベントを盛んに行っているのは、結構なことだと思う。私は、NHKで「いい移住」、「限界集落に住んでみた」などのテレビ番組をよく見る。これが1つ久慈市の人口減少にもヒントになるのではないかと思う。最近、小田・生平地区で、いい移住をしてくれた方がいて、空き家をリフォームして、そこに住んでくれている。これは空き家の解消にもなるし、人口減少対策にもなる。久慈市では空き家、或いは空き家バンクをどのように把握しておるのか。</p>	<p>物件を募集し、所有者の方と相談をしていく中で空き家バンクとして登録をしております。登録いただいたものについては、市のHPや、東京の移住定住相談会、市内の不動産業者から情報をいただき、取り組みをしております。移住については、令和4年度から移住コーディネーター1人を市で委託。もともと地域おこし協力隊として東京から来た人で、現在は久慈市定住しており、久慈市への移住についての条件や、PR発信をしていただいております。5年前、10年前と比較すると県、全国平均を上回るかたちで空き家が増加しております。空き家も人口減少と同じく、明らかに今後拡大していく問題であると認識しておりますが、決して空き家が増えていくことをマイナスの要因としてとらえるのではなく、移住、有効活用の方角に向かってみんなで大事にしてみようという可能性が3年だけでなくその先もここに残ってという可能性がある。いけるように対策を考えております。そういったヒントが川代地区をはじめ、山間部にあるのではないかと考え、研究、検討を重ねてまいります。</p>	総合政策部	地域づくり振興課	質問	B

No.	地区	提言等	取組状況	部	課	提言区分	取組レベル
53	夏井川代	携帯電話の不感地帯ということで、門ノ沢集落の皆さんから、もうほとんどが通じないと相談を受けている。	市の担当が立ち会い、現場の確認をさせていただき、ドコモはなかなか繋がりがつらいという報告を受けおります。他のキャリア、auやソフトバンクは繋がる場所もありますが、やはりお使いの携帯電話会社がいいという意見もあると思うので、市もドコモには、要望していきたいと思う。ただ、民間会社は行政からいうだけではなく、利用者の皆さんから言っていた方が動きのいいというときもあるので、ぜひ皆さんの方からお話をいただければと思う。通じづらい理由の1つが、ドコモの鉄塔のアンテナの方向がちょっと違う方を向いているという話も聞いている。この件はドコモでもまた調べていただけると話も聞いているので、引き続き要望はしていく。これからという方はauやソフトバンクであれば通じるとのことなので、そういうことも考えていただければと思います。	総合政策部	情報システム課	要望	B
54	夏井川代	十斗沢の排水対策をお願いしたい。下流はあまり心配しなくてもいいような状態だが、中流から上流は、倒木や沢が流れ崩れている箇所がある。私たちが子どものころは綺麗な水で、カジカがたくさんいた沢だった。現在、富原の牧草地の方から相当の雨が降れば、汚水が流れてくる。また、春先の雪解け水も大変である。年が明けてから山をひと通り歩き写真を撮ってきたが、相当の倒木があるので、現地を確認していただき、可能であれば、コンクリートの水路にしていいただきたい。	十斗沢の排水対策についてだが、土石流だと岩手県の対応になり、青線の管理だと市の対応になるので、もしよろしければ現地を一緒に見させていただき、どのような問題があるのか確認させていただければ思う。 十斗沢の排水対策につきましては、今後、現地を確認し土砂災害の危険がある場合には、岩手県に要望してまいります。	産業経済部	林業水産課	要望	C
55	夏井川代	U字溝の蓋についてだが、私は区長をしているので川代集落や大芦集落から依頼をされる。毎年お願いをしているが、何回出向いてもダメだからと思い、去年の6月には行かなかった。川代集落では約26メートル、大芦集落では約150メートルの分のU字溝の蓋を、何年かかかってよいので計画的に何とかお願いをしたい。	側溝蓋の提供につきましては、財政状況を勘案しながら提供してまいります。	建設部	道路河川維持課	要望	B

No.	地区	提言等	取組状況	部	課	提言区分	取組レベル
56	夏井川代	有害獣対策だが、私はミツバチを飼育しており、何回か被害にあった。一昨年は猟友会から駆除してもらったが、相当数のクマがいるような気がしているので、対策をお願いをしたい。最近ではイノシシやシカの被害が出ている。農作物もシカの被害がある。幸いにして今のところイノシシの被害はないが、田に入ると収穫できない状態になると聞いている。このことについてお願いをしたいと思っている。	農業者においては、電気柵等の有害鳥獣防除対策に資材及び機器の購入に対し補助を行っているところであります。有害鳥獣対策についてですが、久慈市鳥獣被害対策実施隊によるクマ・シカ・イノシシ等の捕獲を実施しているところであり、令和3年度からは実施隊の体制強化のため、市内に住所を有し有害鳥獣の捕獲に従事しようとする者が新たに狩猟免許の取得等を行う場合に要する経費に対する補助も行っております。また、岩手県においても、ニホンジカ及びイノシシを対象とする広域捕獲を、県内初の取り組みとして令和5年10月に久慈広域で実施し、令和6年度においても実施する予定としており、今後におきましても被害防止に向けて取り組んでまいります。	産業経済部	林業水産課・農政課	要望	A
57	夏井川代	市道川代富原線の草刈りだが、川代地区は後期高齢者が多い。特に川代集落の人口が、川代地区川と大芦地区を合わせて36名。川代集落は相当高齢な方が多く、道路の草刈をするのも1人で刈るといっても大変である。川代集落では、駒形神社の付近から富原の公葬地まで草刈りを1年に2回しているが、もし可能であれば市の方でやっていただければありがたいという思いがある。	集落内の市道の草刈りにつきましては、現在、住民の皆様にご協力をいただいているところであります。今後につきましては、他地区の状況も勘案しながら検討してまいります。	建設部	道路河川維持課	要望	C
58	夏井川代	田沢ブローラー南側市道の拡幅と凍結予防対策について、お伺いしたい。昨年秋の舗装工事で、少し広がったように感じている。まち行くときにそこを通るが、日陰で田沢ブローラーを過ぎるまで凍結していることが多く大変である。田沢ブローラー付近の道路は狭く、私ども高齢者や女性の人たちにとっては大変怖いところなので、できれば拡幅していただきたい。また冬季間には凍結予防剤の散布等、対策を講じていただきたいと思っている。	路面凍結の恐れがあるときには、凍結抑制剤の散布を行っているところであります。また、当該箇所につきましては、令和5年度に舗装補修を実施したところであり、拡幅につきましては、財政状況等を勘案しながら、検討してまいります。	建設部	道路河川維持課	要望	B
59	夏井川代	上夏井橋付近の拡幅をお願いしたい。去年の6月11日に、石鳥谷町の東部土地改良区の皆さんが22名視察においでになり、川代交流館で意見交換をした。来るときは、軽米から大野経由でここに来たが、帰りは上夏井橋を通るルートだったようである。バスが大きく橋に入っていけなかったそうである。夏井にはそのような橋しかないもので、何とか普通のバスが通れるような拡幅をお願いしたい。	市では310橋の橋梁を管理しており、その多くは高度経済成長期に建設されたことから、老朽化が急速に進行する見込みとなっております。現在、橋梁の長寿命化に向けた修繕を集中的に実施していることから、橋梁の拡幅については将来的な課題と捉えており、架け替えが必要となった際に検討いたします。	建設部	道路河川維持課	要望	D

No.	地区	提言等	取組状況	部	課	提言区分	取組レベル
60	夏井川代	この交流館は、川代地区振興会が指定管理を受け、活動の拠点として使わせていただいている。平成10年中山間総合整備事業で整備された建物で、当時の農政課の担当から、この施設は都市住民との交流施設だから、将来的にそういう形で使っていただきたい。と話をされた。都市住民との交流は、中学生や大学生など、ここで交流を図りながら情報交換もできるかなと思っているので、いい方法があれば教えていただきたい。	山形町で白樺の整備や植樹などの再生事業を実施しており、東京や盛岡からも何十人と来久いただいております。参加者は、植樹をしたことがなく、面白いと好評のボランティア活動となっております。例えば川代でも、草刈りは面白いテーマだと思われます。こちらで経費をかけなくても、終わった後に若干のお料理をだし、泊まる場所はここでもいいし、可能であれば民泊で泊めてくだされば経費も割安になる。また来年もこの時期にありますよ、友達を誘って来てください、とすると都市間交流もできるのではないかと考えます。	総合政策部	地域づくり振興課	意見	B
61	夏井川代	川代のバス停から夏井俊勝さんの家の前の舗装道路の部分に、穴が空いているのでそれを埋めてもらいたい。	市道夏井線大芦橋の段差につきましては、修繕に努めてまいります。	建設部	道路河川維持課	要望	B
62	夏井	地区の人口は60人程度だが、高齢化率が恐らく、70%、80%達しているのではないかと思う。少しでも繋がりを持ち、いざというときに備えようと自主防災組織も結成したが、去年の避難訓練は41%しか集まらなかった。ちょっと寒い時期ではあったが、まだ浸透してないと感じている。将来不安だからこそ、少しでも繋がりを強めていく必要があると思ひ、町内会や振興協議会の活動をしている。正直なところ、私ももうすぐ70歳なので、この気持ちをいつまで持つことができるか、不安はある。町内会にも子どもを産むような人もいないので、限界集落をはるかに超えたという思いはしているが、残っている人達だけでも繋がりを深めていきたいと思っている。	地域の皆さんで普段から仲良く、いろいろ事業をみんな行い、万一の事態にはお互い様で助け合うことが、すごく大事だと思っております。久慈市としては、若い人たちがここで生活できる基盤を作っていくのが、責務だと思っております。	総合政策部	地域づくり振興課	意見	B
63	夏井	NTTが、携帯が繋がらない関係で電波を調べていった。ドコモは家の中では繋がらず、玄関から外に出て通話をするようなところが多い。10年ぐらい前に町内でアンケートをとったが、12、3件ぐらいが電波が悪く、市役所とNTT盛岡にも相談をした。今だに順番があると厳しい状況である。若い人たちの通信手段は、ほとんどが携帯である。携帯を離せないような状況なので、やはり夏井から通えるようにネットワークも繋がれば、非常にありがたい。	門ノ沢地区だと思われますが、ドコモが繋がりにくい状況は、承知しているところであり、市でも引き続き要望をしてまいります。また、行政が訴えることも大事ですが、民間の会社は利用者から要望を聞く部分もあるので、地域の皆さんからも要望いただければと思ひます。また、鉄塔のアンテナの向きを調整すれば、少し繋がりやすくなるかもしれないことでもあります。今後、新たに携帯を持つようなことがあれば、現在、つながりやすいauやソフトバンクも考えていただければと思ひます。	総合政策部	情報システム課	要望	B

No.	地区	提言等	取組状況	部	課	提言区分	取組レベル
64	夏井	町内活動だが、仕事を退職する人は65歳以上であるので、役員は65歳以下がいない状態である。私は黒沼地区だが、70歳でも働いている人がいる。そういう人に限って優秀なので、町内の役員もしてほしいが、仕事があるからできないと断られるのがほとんどである。仕事が大変なのはいいことだが、その辺がネックである。きちんとした組織をつくることで、自主防災も協力のネットワークができるのもわかっているが、人が返事をしてくれない。組織を作るには、やはり半分以上が65歳以下でないと、組織にならないと思う。自主防災はまだ意見が盛り上がり結成していないが、結成しても老人の組織になってしまう。ぼやきになり解決にも何にもならないかもしれないが、そのような傾向である。	久慈も人手不足で、建設業もベテランを残さないと仕事ができない、といったように人では足りておりません。自主防災再組織は、大きな災害があったときに、お互いに助け合わなければなりません、仕事がない人だけでは進まないもので、本当に若い人もにも協力してもらわなければいけないと感じているところです。自主防災組織については、解決策ではないが他地区の例を紹介させていただきます。例えば大川目は、三日町、砂子、新町の小さな町内会が1つの自主防災組織を結成しております。減少率が一番高いと説明させていただいた山根地区は、山根地区全体で1つの自主防災会を形成いたしました。山根地区は広いので、実際災害が起きたときに、ちょっと不透明な部分もあるが、まずは結成し、どう動くか話し合う場を作っていただいております。今後検討されるようなところがあれば、防災危機管理課や地域づくり振興課、市民センターなどに相談をお願いいたします。	総務部	防災危機管理課	意見	B
65	夏井	自主防災組織について、確か平成18年から発足していると思う。今年で18年目になると思うが、その間に東日本大震災や平成28年の台風、令和元年の大洪水など久慈市の中心部もかなり被害があったが、実際どのように役に立っているのかですね、どの地区でどのように役に立った実例があるか。簡単に2, 3例教えてもらいたい。	実災害における自主防災組織の活動の実例については把握していないところでありますが、実災害時に機能するよう、平時において、声掛けや避難誘導、炊出しなどの訓練を行ってまいります。	総務部	防災危機管理課	質問	B
66	夏井	自主防災組織を結成するとして、皆さんからプライバシーの問題と言われるのが一番困る。それを吸い上げてやっていく、どこに誰がいるかっていうのを仕上げて調査していく方法は、あるのか。	完全に網羅しているわけではございませんが、要支援者のリストがございます。個人情報保護の観点から、自主防災組織を作っていただき、市役所と協定締結をすると名簿を出せる制度になっております。自主防災組織結成には補助金の制度があり、例えば食料、それを使って食料品を備蓄することや、必要な資機材を揃えるなどもできるように、かなり拡充しておりますので、うまく使っていただけるのではないかと考えております。	総務部	防災危機管理課	質問	B

No.	地区	提言等	取組状況	部	課	提言区分	取組レベル
67	夏井	中学校の統合について、現在は学校単位で地域活動等しているが、統合後は久慈中学校に行くことになる。夏井に中学校の拠点が無くなると、子どもたちとの繋がりを持つ地域活動ができなくなるのか。それとも子どもたちで地域活動を進める考えなどがあるのか。例えば今、夏井は中学生が神楽に取り組んでいるが、学校が統合されれば自然となくなるのか。その地域だけの子どもたちだけでやっていくのか、そのような活動を今後どのようにしていくのか話を伺いたい。	学校と地域のコミュニティの活性化が図られていることは十分理解しております。地域の活動の活性化策については、適正配置に係る構築の保護者の説明会の中でもいろいろな話がございます。当方も、地域と子供たちの繋がり、また地域のこれからの活性化に向けて、どのような形を持っていくか、一緒に考えていく方向であり良い方法をいろいろ考えてまいります。伝統芸能は、屈指の宝であり、学校や家庭、地域と連携し良い活動をして継続していただいております。学校を含め、不足について、地域で考えていきたいと思われま。逆に、地域活動が大きくなり他の地域の子どもたちも伝統芸能について興味を持ち、参加したいということも考えられるので、継続していけるような施策を検討してまいります。	教育委員会	学校教育課	質問	B
68	夏井	地域に26世帯あるが、結婚しない若者たちが15、6名いる。結婚したくなるような施策など久慈で考えているのか。	令和元年度までは縁結び支援員による結婚希望者の支援を行っていましたが、支援希望者の申込みがなくなったことから縁結び支援員による活動は中止されています。また、結婚支援イベントを実施する民間団体等に対する補助金制度もありましたが、コロナ禍により活動する団体もなくなってきたところであります。現在は、会員登録制により1対1の出会いの機会を提供している「いきいき岩手結婚サポートセンター」(i-サポ)への入会登録料を全額補助しており、入会者数は微増している状況です。	生活福祉部	子育て世代包括支援センター	質問	B
69	久慈	若者が集まるビジョンで、何か考えているか。	若者を集めるというのは大事なことでありとらえておりますが、大半は高校を卒業し、進学や就職で久慈を離れると、男性よりも女性が戻ってこない。市内に女性もいないので、婚姻率も上がらないという状況であります。若者に魅力ある職場ということで、久慈市の特色を生かした洋上風力、許可を進めながらその関連企業の誘致を図り、何とか久慈に戻ってきて働けるような職場を考えていきたいと企業誘致の取り組みや企業との連携を進めて枚いたいと考えております。	企業立地港湾部	企業立地課	質問	B

No.	地区	提言等	取組状況	部	課	提言区分	取組レベル
70	久慈	子どもたちはコンピューターなどを有効活用している。また、今までここで育ち、ここで頑張りたいという視点からも、ここでしか食べられないものを作るなど、いい方向でのアイデアがあると思う。そのアイデアは、やっぱり皆さんから出してもらわなければ、なかなかできないと思う。	今話があったコンピューターソフト関係だが「屋内でエアコンのきいたところで仕事をしたい」と、若い人たちの声があり、ソフトウェアの会社2社が久慈に支店を作った。両方の社長から言われたが、若い人が欲しいが人が来ない、ということであった。地元の人を採用したくても、採用ができないと言われる。若い人たちが、この仕事でここで生きていこうという職種を作っていけないといけないと思っている。	企業立地港湾部	企業立地課	意見	B
71	久慈	秋まつりの前夜祭を見た市外の人から、すごいな、これ面白いよね。また来たい。と言われた。そういった何かを仕掛けていくことが大切である。	久慈市最大のお祭りであり、テレビCMや広告等を活用して積極的な周知を行っています。	産業経済部	商工観光課	意見	B
72	久慈	従前に、まちなかの空き家を貸してほしいと言った時には、ここは自宅兼だから貸さない。今は、逆に貸したいけど、誰も来ない。そういったことがある。今、一生懸命やっても、だんだん人がいなくなる。久慈は、後手後手に回っている。だからこそ、みんなで動き、みんなでアイデアを出して声を掛けることが大切だと思う。	空き家の利活用について、移住コーディネーターを設置し、東京のフェアにも参加するなどさまざまな視点から働き掛けを行っております。今後も引き続き積極的に空き家対策に取り組んでまいります。	総合政策部	地域づくり振興課	意見	B
73	久慈	やませデザイン会議の活動の1つに、市民ファンド北三陸地元基金がある。市町村圏域での市民ファンドとしては、非常に珍しい取り組みで注目をいただいている。令和5年4月には、一関市と一関の中間支援のNPO法人が共同して、一関じもっと基金というのを立ち上げるなど、少しずつ他地域にも広がっている取り組みである。この事業の目的は、寄付による新しい参加の社会参加の仕組みである。これまで社会参加と言えば、どうしても労力、活動そのものに参加するということにウエイトが置いてあったが、そうではない参加の仕方もある、ということで取り組んだ。寄付による新しい社会参加の仕組みである。また、人・物・金・情報を、地域の中でいかにつなげていくか、そういった仕組みにもしていきたい。	NPOの中間支援の役割を、やませデザイン会議が担っていただけるとすごくありがたい。直接やりとりするではなく、ワンクッションといいますか、そこがNPO法人を指導していただけるようになるのは良いことだと思う。	総合政策部	地域づくり振興課	意見	B

No.	地区	提言等	取組状況	部	課	提言区分	取組レベル
74	久慈	<p>公金に頼らなくてもできる仕組みが必要だと思い、北三陸じもっと基金を行っているが、まだ道半ばであると思っている。基金は、団体の設立や新たな事業を起こすきっかけにもなっており、その団体の事業を継続的に育て、支えるような仕組みも、まだまだ不十分だと感じている。そこで提言であるが、NPO、市民活動団体、もしくはこの北三陸地元基金などの市民ファンドへの寄付控除の仕組みをつくることできないか。手法としては、ふるさと納税からの直接寄付もしくは条例指定寄付金制度の導入などがあるのではないかと考えている。まず導入に向け、担当課の皆さんとやませデザイン会議と一緒に勉強するところから、できたらいいのではないかなと考えている。</p>	<p>社会参加の仕組みづくりということで、地元基金の寄付控除支援やふるさと納税の活用と条例指定寄付金制度であるが、ふるさと納税は久慈市でも予算の確保のために一生懸命今進めているところでございます。ふるさと納税は、久慈市の物産を返礼品としていただくということ以外に、体験型などさまざまなことにも活用できる部分があり、そのようなメニューを考えているところであります。やませデザイン会議のご提言にあったような部分についても、どうことができるか、今後、担当課と話をしてみたいと思います。実際、企業版ふるさと納税の中には、例えばあまちゃんマラソンの支援や白樺の植林をしているくじラボの活動などの事業についても指定をいただき、活動している。このような点を踏まえ、検討してみたいと思います。</p>	総合政策部	地域づくり振興課	意見	C
75	久慈	<p>市民活動団体を継続的に支援するため、公的な中間支援機関の設置を検討できないか、と思っている。中間支援機関の設置は、協働を支えるための仕組みの1つでもあると考えている。当初は市民活動を行う任意団体やNPO法人を支援するためのNPOということで、NPO法の施行とともに始まったが、近年は地域支援という意味での中間支援のニーズも高まっている。行政と地域の2者では、利害対立や意見対立が起きやすいことから、橋渡しや通訳という意味でも、中間支援を地域でどう形成できるのかが、今大きなポイントになるのではないかと感じている。そういう意味もあってだと推察しているが、令和元年度から久慈市から集落支援事業の委託を受け、これまでのNPO市民活動支援に追加する形で、我々も地域支援のスキルと経験を積ませていただいている。協働の仕組みの構築を目指し、中間支援機関の設置を一緒に考えていただければと思っている。一番理想なのは、単独での中間支援機関の設置、公的な中間支援機関の設置だが、現状はなかなか難しいと思うので、例えば中央市民センターなどの公的施設に中間支援機関を設置するなど現実的ではないかと考えている。</p>	<p>中間支援機関の設置であるが、これについても実際私たちも必要だということでは認識をしているところでございます。その地域の中で、地域づくりを市民センターを中心に進めていこうという考えを持っているところであり、センター的な役割として、中央、その上に行き、位置付けて、地区センターの活動を支援し、年次計画を立てていきたいと思っております。その中で、さまざまな組織や連携できる団体等と、話をしながらどのような位置付けがいいのか、どのようなことを担ってもらったらいいのかなど、今後、相談をしていければと思っております。</p>	総合政策部	地域づくり振興課	意見	C

No.	地区	提言等	取組状況	部	課	提言区分	取組レベル
76		現在、中間支援的な人材である集落支援員は3名だが、増員をぜひ実現をしていただきたい。3人だと、長内地区と中央地区での支援をすることができない状態が続いている。増員することで、一応全地区を支援する体制ができるのではないかと思う。中央地区は少し特殊であるので、若干他の手段も考えなければいけないところではあるが、少なくとも長内地区までは、カバーできる体制、人員を整えることが必要なのかなと思っているので、ぜひ検討いただきたい。	先ほど、市民センターの話をさせていただきましたが、これまでの公民館としてのいわゆる社会教育事業もやりつつではありますが、活性化にも力を入れていきたいと思っております。支援者の増員ができれば一番良いのかもしれないが、市民センターの活用も考えてながら進めたいと思っており、その中で集落支援員とどのような連携ができるのかも考え進めてまいります。長内と中央は、地域も広く、浜側や内陸側など、地域の統一性が図られてないというところもございしますが、その辺りも、センターを中心に情報収集しながら入っていければと考えております。市街地については、本当に高齢化と相まって、さまざまな活動をうまく進められない状況がございします。中央を中心に、地域づくり振興課も関わりながらどういった形で進めていけるのか、考えてまいります。	総合政策部	地域づくり振興課	意見	C
77	久慈	大規模災害になればなるほど、行政の業務は非常に膨大になる。1月1日に発生した能登半島地震でも、行政が全部できないことは明らかである。久慈地域でも早急に、行政を地域NPOが支える、もしくは補完する仕組みをつくるのが重要なのではないかと考えている。また、災害は発災時、復興期などを書く段階でも使用方法が異なる。その辺りも含めた仕組みづくりが必要ではないかと思う。そこで提言であるが、そういった仕組みを一緒に作っていききたいと考えている。	防災の仕組みづくりだが、防災についてさまざまな課題がある。災害時における協働の仕組みもその通りである。実際、阪神淡路大震災では、自助7割、共助2割、公助1割しか機能しないという話もあった。まずは自助、そして地域での共助の部分に力を入れていかなければならない。連携のあり方については、防災危機管理課や地域づくり振興課で、どのようなところが地域とできるかを考えていきたい。自主防災組織の設立の支援をしているが、結成したから良いということではなく、活動支援についても連携を進めていきたい。目に見える危機として日本海溝千島海溝の話もあるので、市民のみなさんに今何をしたらいいのか、どのようなことが必要か、など情報提供しながら、地域づくりを進めていきたい。	総務部	防災危機管理課	意見	B
78	久慈	災害時の対応など担当課と協働し、地域向けのイベントや講座を開き、住民の意識をちょっとずつ変える、または連携の仕組みを、実践を通して積み重ねていく。そういったところから始めることができればと思っている。	地域向けのイベントなどでの講座については、防災危機管理課にお声がけいただき、対応してまいります。	総務部	防災危機管理課	意見	B
79	久慈	人材育成や人材確保を目的に、産業技術短期大学を久慈市に誘致してはどうか。	産業技術短期大学校を県北地区に誘致という話もあったことから、情報収集をしてまいります。	企業立地港湾部	企業立地課	意見	C

No.	地区	提言等	取組状況	部	課	提言区分	取組レベル
80	久慈	鉄道は地域の重要なインフラ、三陸鉄道存続に繋がるように支援してはどうか。	公共交通は本当に厳しい状況ではありますが、バス、マイレール、八戸線、三鉄、市民バスなどの利用促進活動を、それぞれの地域や市民に呼びかけをしていきたいと考えております。三陸鉄道は、今年40周年ということから、記念事業の部分も情報収集し、振興局と連携も考えながら進めてまいります。	総合政策部	地域づくり振興課	意見	B
81	久慈	三陸沿岸道路の利点をもって、さらなる誘致企業を呼んではどうか。	沿岸道路のPRや利用促進、さらなる企業誘致という部分についても、冬場は特にメリットがある道路でもございます。八戸や宮古など、即時性が向上しているのので、そういう部分についても、PRをしていければと考えております。	企業立地港湾部	企業立地課	意見	B
82	久慈	結婚前提としない人たちでも、子育てちゃんと全うできるような政策やシングルマザーの周りの偏見などをなくしていくような、まちづくりにしてはどうか。	児童手当や保育所等の利用など子育て支援制度については、婚姻の有無に関わらず、サービスを受けられる状況となっております。ひとり親などにはより手厚い支援を行っているところではありますが、依然、ひとり親の方の生活実態は、仕事と家事・育児等の両立などにおいて、困難な場合が多いものと認識しております。 婚姻を経ないひとり親などへの偏見の解消も含め、多様な子育て支援に関する施策の展開については、市単独での取組みには限界があることから、国・県と連携し、多様な子育てへの支援や市民の意識醸成に努めてまいります。	生活福祉部	子育て世代包括支援センター	意見	C
83	久慈	久慈市は、海もあり山もあり食材の宝庫だと思う。例えば、久慈に十文字ブロイラーを利用して、久慈に行ったらどこ行ってもおいしい鶏肉が食べられる。など、そういった名物作りをちゃんと頑張った方がいいのではないか。	農業においては、地域の特産品について、各種イベント等を通じた知名度の向上に努めております。乾椎茸・木炭等のブランド力の強化につきましては、岩手県や関係団体と連携して対応しているところであります。ウニ・アワビ・ギンザケをはじめとした本市水産資源の名物づくりににつきましては、久慈市漁協や岩手県等の関係機関・団体と連携し、引き続き実施してまいります。久慈市の豊富な資源や食材を生かした特産品の開発についても、民間企業や生産者と連携して取り組んでいきます。	産業経済部	農政課・林業水産課・商工観光課	意見	B

No.	地区	提言等	取組状況	部	課	提言区分	取組レベル
84	山根	人口減少は理解していたが、久慈市ではどのような取組みをしているのか教えていただきたい。	久慈市では人口減少・少子化対策として、安定した雇用の確保が特に重要と考えており、現在、洋上風力発電の事業化や山形地区での脱炭素先行地域事業に取り組むことで、関係企業の誘致等により仕事の場を増やし、若者の定着に繋げていきたいと考えております。さらに、子どもの医療費助成範囲の拡大や子ども第三の居場所事業運営支援をはじめとする子育て支援に取り組んでいるほか、道の駅「いわて北三陸」開業等を契機とした久慈市の魅力を積極的に発信し、関係人口・交流人口の拡大を図り、選んでもらえる市を目指して取組を進めています。	総合政策部	政策推進課	質問	B
85	山根	山根でも、道路が整備されている集落の人口減少率は少ないように思う。県道が通っているところも減ってはいるが、他の地区と比べると高齢者が多いものの、残っている人が多いと感じている。	久慈岩泉線や国道281号など幹線道路網の整備について、毎年度、県に要望しているところであり、引き続き要望してまいります。市道については、財政状況を勘案しながら整備に取り組んでまいります。	建設部	建設企画課	意見	B
86	山根	久慈に住んでもらえるような政策も、人口減少を食い止める1つの方法ではないかと思う。	久慈市へ住んでもらうための政策も人口減少対策の重要な要素です。市民の方には「ずっと住み続けたい」、市出身の方には「戻ってきたい」、市外・県外の方には「愛着のある」と思ってもらえるまちづくりを推進するため、子育て環境の充実や地元愛の醸成、久慈の魅力発信などの各種施策を実施しています。久慈市への人の流れをつくるために現在、特に強く国・県に要望しているものは、①「(仮称)久慈内陸道路」の早期実現 ②洋上風力発電の事業化に向けた取組への協力 ③県営恐竜博物館の建設 であります。	総合政策部	政策推進課	意見	B
87	山根	山根のデイサービスについて、せめて1年間だけ他と同じように扱ってもらえないのか。ボランティアでやっているわけではないので、しょうがないと思うが、私たちの一番の要望である。	山根地区デイサービスセンターにつきましては、施設が土砂災害特別警戒区域内に位置し、利用者及び施設で働く職員の安全確保に不安があること、建設から45年以上が経過し老朽化していること、稼働率が低く利用者確保や今後の経営状況改善の目途が立たないこと等の状況を総合的に判断し、令和7年3月末をもって事業廃止の方向を決定したところであります。市では、利用者に安全な施設で安心して介護サービスをご利用いただくため、新たな受入先を確保するとともに、居宅介護支援事業所と連携し移行の調整を進めており、令和6年4月からは全ての利用者が新たな通所先を利用される見込みとなっております。今後におきましても、本市における高齢者施策を推進していくため、市内の介護サービス事業所全体で高齢者の暮らしを支えていけるよう努めてまいりますのでご理解いただきますようお願いいたします。	生活福祉部	地域包括支援センター	要望	D

No.	地区	提言等	取組状況	部	課	提言区分	取組レベル
88	山根	除雪はとてもありがたいが、除雪の後のガードレールやガードロープなど、危険だから設置していると思うが、ただついている状態の箇所がある。春もパトロールをしているようなので、そういうところを見て直していただきたい。	財政状況を勘案しながら、修繕に努めてまいります。	建設部	道路河川維持課	要望	C
89	山根	長い期間通行止めになっている道路があるが、直すのか、それともそのままずっと通行止めなのか。	安全な除雪作業につきましては、契約者に十分周知しているところです。今後におきましても、除雪に対する地域の声を聞きながら改善に向け努めてまいります。	建設部	道路河川維持課	質問	B
90	山根	人口減少や高齢化で、草を刈る人がほとんどいなくなっている。できる部分で、ということであればよいが、昔から範囲が地区で決まっておき、2日も3日もかけて草刈りを行っている。道路を管理している方にちょっと考えていただきたい。	集落内の市道の草刈りにつきましては、現在、住民の皆様にご協力をいただいているところであります。今後につきましては、他地区の状況も勘案しながら検討してまいります。	建設部	道路河川維持課	要望	C
91	山根	普段あまり水が出ていないが、冬場でもちよろちよろ水が出ている場所がある。道路工事をした人たちが、冬でも水が流れるよう綺麗に掘っていたが、除雪車が砂利を押し込み塞いでしまった。その影響で道路に水が流れ、凍結して非常に危険である。除雪の際は気をつけるように、指導していただきたい。	安全な除雪作業につきましては、契約者に十分周知しているところです。今後におきましても、除雪に対する地域の声を聞きながら改善に向け努めてまいります。	建設部	道路河川維持課	要望	B
92	山根	小田瀬だが、市の水道で3カ所ぐらいとめる。去年もだったが、道路のぎりぎりまで水がきた。どこに相談すればいいのか。途中まで擁壁ブロックを積んでいるので、もう少し延ばしてもらおうなど、何とかしてもらわなければ、雨が降るたびに恐怖を感じる。	令和6年の出水期（6月頃）までに、河道掘削等を実施する予定となっております。また、擁壁ブロックについては県管理施設であるため、県土木部に情報提供を行ってまいります。	上下水道部	上下水道整備課	要望	B
93	山根	暗い話題ばかりなので、何か山根に住んでいて良かったというような、明るい話題ができるようなことを考えてほしい。	令和5年度に新山根温泉べっぴんの湯は全館リニューアルオープンし、日帰り入浴者や宿泊者など、多くの方にご利用いただいています。季節毎にイベントなども開催し、地域と連携して賑わいのある施設づくりに努めてまいります。	産業経済部	商工観光課	意見	B